

令和4年度

庄内総合支庁運営プログラム

評価票

令和5年8月
庄内総合支庁

令和4年度 庄内総合支庁施策体系

I 第4次山形県総合発展計画の推進

1 「庄内」の人々の暮らしを支える活力あふれる地域コミュニティの形成

- ① 次代を担う若者の地元定着促進に向けた取組みの強化
- ② 地域を挙げたふるさと回帰促進に向けた取組みの加速
- ③ 誰もが活躍し、安心していきいきと暮らせる地域づくりの推進

2 「庄内」の強みを活かし高い付加価値を創出する産業群の形成

- ④ 庄内地域発の「イノベーション」の促進
- ⑤ 「食」を基軸とする多様な交流の拡大
- ⑥ 「空」と「海」のゲートウェイを起点とする交流拡大の推進

3 「庄内」の交流・発展を支える社会基盤の形成

- ⑦ 広域交流の拡大に向けた格子状高速交通網の整備促進
- ⑧ 庄内空港、酒田港の利用拡大に向けた取組みの加速
- ⑨ 再生可能エネルギーを活用した地域経済活性化や地域資源活用によるエネルギー地産地消の促進

令和4年度 庄内総合支庁 主要事業

I 第4次山形県総合発展計画の推進

1 「庄内」の人々の暮らしを支える活力あふれる地域コミュニティの形成

施策の推進方向と主な取組み

① 次代を担う若者の地元定着促進に向けた取組みの強化

K P I	庄内地域の高校卒業者の県内定着率と県平均との差					
	基準値（平成30年度）：△10ポイント [県平均 79.2%、庄内 69.9%]					
		R2	R3	R4	R5	R6
	指標値	△8ポイント	△6ポイント	△4ポイント	△2ポイント	県平均と同値
	実績値	△9.9ポイント	△9.8ポイント	△8.5ポイント		
進捗状況	進捗又は横ばい					

【令和4年度における評価と見直しの方向性】

（評価）

- ・オール庄内で構成する「庄内若者定着促進会議」が中心となり、高校卒業者の地元就職の促進を図る取組みを実施した結果、R4指標値には到達しなかったものの、県平均との差は徐々に縮まってきている。
 - ⇒ 就職を控える高校生に対して地元企業の魅力を伝えるため「高校生と地元企業の交流会」を開催（3校）。
 - ⇒ 職業体験を通して中高生の地元企業に対する理解を深めるため、「WAKU WAKU WORK」を開催。特に高校入学前のより若い世代に地元で働くイメージをもってもらうため、令和4年度は中学校での開催を拡大（中学校：15校17回、高校：6校7回）。
- ・地元定着・回帰の土台となる郷土愛の醸成を図ることを目的に、高校生を対象としたワークショップ（7校13名参加）及び発表会を行った。
- ・県内進学を促進するため、県内私立専修学校等の生徒に対する帰省に要した交通費への補助を行った。

（見直しの方向性）

- ・管内の高校卒業者の県内就職率が徐々に上昇していることを踏まえ、「高校生と地元企業の交流会」や「WAKU WAKU WORK」など、若い世代が地元企業について知る機会をさらに増やしていく必要がある。
- ・管内の大学等の学生の県内定着率が低い水準（令和3年度34.6%）にとどまっていることから、これらの学生が卒業後も地元で就業しようとするきっかけ作りや機運醸成が必要。
- ・より多くの高校生にワークショップに参加してもらうため、若者が郷土について考え、交流する機会を継続して増やす。

【令和4年度関連事務事業】

（単位：千円）

事業名	決算額 （予算額）	事業実施状況
人材確保・生産性向上推進事業	206 (285)	・地域の維持発展に不可欠な若者人材の定着・回帰を促進する施策の検討を行うため、産・学・官・金・労・言の各界の参加による「庄内若者定着促進会議」を開催（8月18日） (本庁予算)
地域若者人材確保対策事業	1,113 (1,310)	・高校生の地元就職や大学等進学者の県内回帰を促進するため、管内の高校長と行政との意見交換会を開催（2月14日） ・高校生と地元企業との交流会の開催（3校）

		・中高生による職業体験会「WAKU WAKU WORK」の開催（中学校：15校17回、高校：6校7回） (本庁予算)
庄内地域課題解決推進事業	1,314 (1,372)	・企業採用ガイドブックの作成、配付（106社掲載、4,500部） ・地域情報誌を活用した地元高校生・専門学校生による庄内の魅力情報の発信（年2回、各4頁掲載。通常頒布に加え、管内全高校の2年生に配布）
庄内を支える建設業への若者就業促進事業	320 (320)	・中高生向けに地元建設業への関心・興味を啓発するためのリーフレットを各4千部作成し、管内全域の高1及び中2生徒に配付 ・啓発パネル展示を実施（9月14日朝日中学校、11月10日～17日酒田光陵高、12月21日マリカほか）
若者地元魅力発信促進事業	1,349 (1,349)	・高校生を対象に若者「庄」学校ワークショップ（7校13名）及び発表会（2月11日）を開催
庄内地域探訪共創講座開催事業	450 (450)	・庄内地域の自然や文化などの地域資源を深く学習する講座を開催（生涯学習施設「里仁館」委託事業3講座、参加者計86名）
庄内若者定着促進事業	405 (549)	・県内進学を促進するための県内私立専修学校等の生徒に対する帰省に要した交通費の補助（31名、補助額計348,490円）
計	5,157 (5,635)	

② 地域を挙げたふるさと回帰促進に向けた取組みの加速

K P I	25～34歳の社会増減数（転入者数－転出者数）					
	基準値（H26～30年平均）：85.2人					
		R2	R3	R4	R5	R6
	指標値	90人	90人	90人	90人	90人
	実績値	107人	△25人	△31人		
	進捗状況	策定時を下回る				

【令和4年度における評価と見直しの方向性】

<p>（評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者（25-34歳）をターゲットとしたオンライン交流会の開催、SNSによる情報発信、県外からの転入傾向の調査分析（転入者アンケート、アンケート分析）を実施した。 ・庄内就職説明会の開催に当たり、県内外の主要な大学等のキャリアセンターを通して学生に周知したほか、県をはじめ市、町、その他関係機関のホームページやSNSを活用して幅広く情報提供を行い、参加学生の確保に努めた。 <p>（見直しの方向性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転入傾向の調査分析結果から、転入者の増加に向けた効果的な移住施策を展開する。 ・新規学卒者等に対する効果的な情報発信やアプローチが十分でない企業が少なくないことから、企業の魅力発信や採用力強化のための支援が必要。

【令和4年度関連事務事業】

（単位：千円）

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況
庄内地域転入者数アップ促進事業	1,417 (1,417)	・オンライン交流会の実施（11月23日、2月5日） ・庄内暮らしツタエタイによるSNSを活用した情報発信 ・県外からの転入傾向の調査分析
庄内地域課題解決推進事業	1,314 (1,372)	・大学3年生（就活生）を主な対象とした、適性分析や自己分析等を通して、庄内地域でどのような仕事や生活ができるかを考

(再掲)		える「庄内若者ライフキャリアセミナー（オンライン）」を2回開催（7月30日・11月27日、参加者延べ11名）
飛島移住定住促進事業	4,525 (4,836)	・オンラインとオフラインを活用した移住体験事業を実施（7月～11月）（飛島での島キャンプは8月～9月実施、延べ21名参加） (本庁予算)
地域若者人材確保対策事業（再掲）	1,113 (1,310)	・大学進学者等の地元回帰促進と企業の人材確保を図るため、新卒者・U・I・Jターン希望者向け「庄内就職説明会」を開催（参加企業：109社、参加者：延べ175人） (本庁予算)
人材確保・生産性向上推進事業（再掲）	206 (285)	・大学等進学を目指す高校生を対象に地元企業の魅力や地元で働くことの意義などを伝える「地域産業理解促進セミナー」を開催（6校） (本庁予算)
計	8,575 (9,220)	

③ 誰もが活躍し、安心していきいきと暮らせる地域づくりの推進

K P I	子どもの居場所づくり（子ども食堂）に取り組む事業所の箇所数（累計）					
	基準値（令和元年）：9箇所					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	10箇所	11箇所	12箇所	13箇所	14箇所
	実績値	10箇所	13箇所	14箇所		
	進捗状況	指標値どおりに推移				
K P I	福祉型小さな拠点のうち生活支援活動を行う拠点の割合					
	基準値（令和元年）：27.0%					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	31.6%	36.2%	40.8%	45.4%	50.0%
	実績値	40.5%	39.5%	48.6%		
	進捗状況	指標値どおりに推移				

【令和4年度における評価と見直しの方向性】

<p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支庁ホームページやSNSを通して、子ども食堂の開催予定や実施状況の積極的な周知に努めるとともに、令和4年11月にNPO法人ぼらんたすが中心となって設立した「庄内子ども食堂等地域ネットワーク」の応援会員としてその取り組みを紹介することにより、子どもの居場所づくりに取り組む事業所は着実に増加している。 ・地域包括ケアシステム構築のため、地域住民の代表者や市町に働きかけ、住民主体の介護予防・生活支援の促進を図った。 ・庄内若者協働考房「ミーティング」において、「ウィズコロナ・ポストコロナにおけるU・I・Jターンについて」をテーマに、若者の移住促進・地元定着促進に向けた方策について意見交換を実施したほか、地域で活躍する若者の活動を深めるため「SNSによる効果的な情報発信」をテーマとした交流学习会を実施した。 ・市町を年間5回訪問し地域課題の共有を図り、その中から抽出した共通課題として、地域公共交通をテーマとした庄内広域連携課題調整会議を開催し、意見交換を行った。 ・島民、大学、NPO、行政等で構成する「とびしま未来協議会」による飛島の活性化に向けた活動への支援を実施した。 <p>(見直しの方向性)</p>

- ・子どもの居場所づくりに取り組む事業者が実施意欲を持ち続けられるよう、引き続き開催予定や実施状況の周知、支援制度等の情報提供に取り組む。
- ・子ども食堂がない町（三川町）や地域の実情を把握しながら、子ども食堂が一層増えるよう市町と連携して取り組む。
- ・本庁高齢者支援課と連携するとともに、市町に働きかけをすることで福祉型小さな拠点整備を推進する。
- ・引き続き、地域の若者と地域課題解決のための意見交換会を実施し、提案された意見等を各種施策や取組みに反映させていくとともに、若者同士のネットワーク強化を図る。

【令和4年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況
庄内地域課題 解決推進事業 (再掲)	1,314 (1,372)	・庄内若者協働考房ミーティング及び交流学習会を開催（ミーティング：8月29日 若者7名参加、交流学習会：2月27日 若者10名参加） ・市町首長訪問2回（8月、2月）、市町企画調整担当課長訪問3回（6月、10月、2月）実施。
庄内地域交流 活動支援事業	200 (350)	・世代を超えた交流や地域内外との交流等による地域の活性化・交流人口の拡大に取り組む地域団体に対する助成
飛島活性化 応援事業	465 (465)	・「とびしま未来協議会」による協議会の開催、県外での飛島のPR、島内外への情報発信等、島の活性化に向けた活動への支援を実施
飛島移住定住 促進事業 (再掲)	4,525 (4,836)	・オンラインとオフラインを活用した移住体験事業を実施（7月～11月）（飛島での島キャンプは8月～9月実施、延べ21名参加） (本庁予算)
地震津波災害 対策推進事業	432 (432)	・市町沿岸地域津波避難訓練を実施（参加者約2,200人） ・市町合同地震・津波避難訓練を実施（参加者約5,500人） ・関係機関を対象とした防災研修会を実施 ①災害事例から想定すべき被害及び対応方針（参加者34人） ②個別避難計画モデル事業を活用した取組み（参加者30人） ③令和4年8月大雨災害の振り返りと県の市町村支援（参加者30人）
津波対策推進 事業	31 (396)	・津波避難用照明設置（遊佐町4箇所） (本庁予算)
子どもの居場所 づくりサポート センター 運営事業	4,620 (4,620)	・子どもの居場所づくりに関する相談支援業務、地域みんなで支える居場所づくりの仕組みづくり、地域ネットワーク形成のための研修事業を実施 (本庁予算)
子どもの 居場所運営 支援事業	5,523 (5,523)	・子ども食堂の運営に係る経費の支援を実施 ・子ども食堂の開催とは別に、困難な状況にある子どもやその保護者を対象としたフードパントリー等の食の支援活動と個別相談の機会を設ける活動の支援を実施 (本庁予算)
在宅における 食支援連携 促進事業	122 (123)	・高齢者のフレイル予防のため、「食べること」へのサポートに関する研修会を開催し、専門家による講演と、併せて食支援に取り組む団体と研修会参加者による意見交換を実施
海岸漂着物 対策推進事業	6,500 (6,597)	・飛島クリーンアップ作戦について実行委員会を組織して計画したが、荒天により中止 ・海岸漂着物対策学生リーダー育成事業を飛島で実施 (本庁予算)

海岸漂着物 対策市町村 補助事業	17,051 (20,065)	・国の「海岸漂着物等地域対策推進事業」を活用した鶴岡市、酒田市及び遊佐町が実施する海岸漂着物回収処理事業への助成 (本庁予算)
出羽庄内公益 の森づくり 事業 《やまがた緑 環境税基金》	461 (470)	・県民参加の森づくり活動への支援(現地指導や機材貸与等 20回)、森林環境教育への支援(「地域ふれあい講座」28回)及び森づくりに精通した人材の育成(活動リーダー研修1回、森の案内人養成研修により5名認定)
計	41,244 (45,249)	

施策の推進方向と主な取組み

④ 庄内地域発の「イノベーション」の促進

K P I	製造業従事者一人当たり付加価値額					
	基準値（平成29年）：1,655万円【全県 1,133万円（平成29年）】					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	1,832万円	1,895万円	1,960万円	2,027万円	2,096万円
	実績値	1,286万円 （直近値）	—	—		
	進捗状況	策定時を下回る				
K P I	農業者当たり産出額					
	基準値（平成29年）：751万円【全県 621万円（平成29年）】					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	824万円	848万円	872万円	897万円	921万円
	実績値	716万円	661万円 （直近値）	—		
	進捗状況	策定時を下回る				

【令和4年度における評価と見直しの方向性】

（評価）

- ・管内企業の取引機会の拡大や、デジタル化の推進による生産性向上や付加価値増大の取組みを支援した
 - ⇒ 庄内商談会の開催（9月15日、参加企業：67社）
 - ⇒ デジタル技術活用によるセミナーの開催（3月7日、参加者25団体40名）
- ・園芸作物の振興：生産振興を図った。
 - ⇒ アスパラガス：ハウス多収技術実証圃の設置と成果のリーダー的生産者との共有、現地検討会、研修会等による多収技術の普及
 - メロン：多収栽培技術の普及（産地強化のための研修会は、悪天候のため中止）
 - ストック：播種方法と肥培管理等の検討、有望品種の現地研修会開催による導入面積拡大、流通関係者への求評を通じた認知度の向上
 - 庄内柿：大玉果の安定生産に向けた早期摘蕾・摘果等の技術の普及、凍霜害を受けた樹の調査と事後指導、「機械乾燥による干し柿加工の手引き」を活用した講習会の開催、新規生産者の掘り起こしと効率的な加工に向けた個別指導の強化
- ・ブランド水産物の認知度向上に向けたキャンペーン、庄内北前ガニの高い品質を維持するための目揃え会、漁獲物の安定供給に向けた蓄養技術の改良を実施した。

（見直しの方向性）

- ・ICT等による新技術の導入
 - ⇒ 県産米ブランドの維持・向上を図るため、適正管理と省力化の取組み実施
- ・園芸振興に取組む。
 - ⇒ アスパラガス：新たに実証圃を起点とした現地指導や研修会による早期成園化技術の普及に取り組む
 - メロン：天候不順における安定生産技術の開発及び普及に取り組むとともに、ブランド化に向けたキャンペーンや研修会を開催する
 - ストック：一定の成果が得られたため、来年度は輸出需要が高まっているさくら「啓翁桜」の品質安定化に新たに取り組む
 - 庄内柿：化学肥料低減による環境にやさしい柿生産技術の推進と大玉生産技術の高位平準化と効率的な乾燥方法による高品質干し柿加工のコスト低減と生産拡大

・庄内浜産水産物のブランド力向上に向け、認知度向上のためのキャンペーンを継続して実施するとともに、庄内北前ガニの目揃え会の実施や紅えびなど蓄養技術の改良に引き続き取り組み、品質維持向上と安定供給に資する。

【令和4年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況
地域中小企業 連携促進事業	410 (626)	・庄内商談会の開催(9月15日、参加企業：67社) ・デジタル技術活用によるセミナーの開催 (3月7日、参加者25団体40名) (本庁予算)
庄内柿産地 活性化 プロジェクト 事業	621 (643)	・庄内柿の大玉生産技術の普及・定着に向けた実証圃の 設置(2園地)と講習会の開催(15回) ・凍霜害の軽減に向けた技術対策を取りまとめた手引書 の作成(令和5年3月、250部) ・干し柿の新規生産者掘り起こしを図るための講習会 (1回)や情報交換会の開催(1回)と生産性向上に 向けた個別指導の強化 (本庁予算)
やまがた野菜 ブランド力強化 事業	351 (351)	・優良生産者圃場の土壌水分・ハウス内気温等のモニタリ ング実証圃(2か所)の設置と現地検討会の開催(1回)、 担当生産者との情報共有、ハウスアスパラガス栽培だよ りの発行(8回)による適期管理の推進、栽培志向者・ 初心者向け栽培講習会(1回)や現地指導による栽培技 術習得支援、露地栽培における病害対策実証圃(1か所) の設置と現地検討会の開催(1回) (本庁予算)
やまがた花き ブランド力強化 事業	309 (309)	・商品化率の高いオールダブル系品種のストックの作型 確立(2作型)及び認知度向上のための展示、求評調査 (1回)の実施 (本庁予算)
地域園芸産地 技術開発・支援 事業	1,744 (1,744)	・水稻育苗ハウスを活用した「シャインマスカット」の高 品質生産技術の開発、ネット系メロンのハウス早熟栽培 における多収栽培技術の検討及び「啓翁桜」の花芽着生 技術の検討 (本庁予算)
地球温暖化対応 プロジェクト 総合戦略事業	682 (682)	・温暖化に伴う、かんきつ類等の新たな栽培可能な品目 についての探索および可能性のある樹種・品種についての 栽培管理技術の検討 (本庁予算)
農業経営法人化 等総合支援事業	116 (176)	・庄内地域農業経営・就農支援チーム会議(1回)、鶴岡 田川実践チーム会議(2回)及び酒田飽海実践チーム会 議(2回)の開催 ・農業経営力向上研修会(1回)開催 ・専門家アドバイザーの派遣(4経営体) (本庁予算)
園芸団地推進 プロジェクト 事業	103 (120)	・市町村、JA、土地改良区、県等で構成する支援チーム による支援を実施 (本庁予算)
新規就農者 確保・育成支援 事業	143 (403)	・就農相談への対応(32回)、青年等就農計画の作成支援 (14回)、営農定着に向けた技術・経営支援及び農業経 営実践講座の実施(188回) (本庁予算)
水田の生産基盤 整備に関する	3,145,001 (3,519,001)	・生産コストの削減、農地集積・集約化及び農業所得向上 に向けた農地の大区画化(50.3ha)、用排水路管路化

事業		(本庁予算)
園芸産地の基盤の強化に関する事業	1,000 (1,000)	・水田の汎用化に向けた実証ほ場の設置による整備の推進(2地区) (本庁予算)
次世代水産人材創出支援事業	18,473 (40,916)	・漁業就業研修を開始するまでの支援や、新規独立漁業就業者の所得補償、独立後の技術習得・技術継承のための研修等、新規漁業就業者の確保に向けた総合的な支援対策、漁家子弟支援を実施(研修開始2名) (本庁予算)
庄内浜トップブランド水産物創出事業	800 (800)	・水産物のブランド化に向けた漁業者、県漁協、沿岸市町、県等による「庄内浜ブランド創出協議会」における販売戦略の検討及び販促キャンペーンを実施 (本庁予算)
漁業生産体制強化対策事業	1,037 (1,037)	・漁業への就業相談から定着までを一貫して支援する「漁業就業者確保育成センター」の運営 (本庁予算)
栽培漁業地域展開促進事業	2,231 (2,721)	・県漁協が行うヒラメ(130千尾)放流・トラフグ(19千尾)放流、モニタリング調査事業に対する市町支援への補助 (本庁予算)
計	3,173,021 (3,570,529)	

⑤ 「食」を基軸とする多様な交流の拡大

KPI	「食の都庄内」サポーター数					
	基準値(平成30年度): 1,302件					
		R2	R3	R4	R5	R6
	指標値	1,700件	1,900件	2,100件	2,300件	2,500件
	実績値	1,627件	1,828件	2,059件		
	進捗状況	概ね順調に推移				
KPI	「食の都庄内」協力店登録数					
	基準値(平成30年度): 448事業所					
		R2	R3	R4	R5	R6
	指標値	500事業所	525事業所	550事業所	575事業所	600事業所
	実績値	538事業所	536事業所	556事業所		
	進捗状況	指標値どおりに推移				

【令和4年度における評価と見直しの方向性】

(評価)
<ul style="list-style-type: none"> ・「食の都庄内」のブランド確立に向け、庄内のワインと旬の食材を活かした料理との組み合わせをテーマとした交流会を開催し、その様子等の動画を配信したほか、Instagram等を活用して庄内の豊かな食や食材の情報を発信した。 ・庄内特産の農林水産資源の利用拡大に向け、パプリカや鮭をテーマとした産地見学会、6次産業に取り組む農林漁業者や食品製造業者を対象とした商品の魅力アップに関するセミナー・求評会、ワイン事業者や醸造用ぶどう生産者を対象とした研修会を開催したほか、庄内産スタチの品質向上のためカラーチャート(色見本)を作成した。 ・庄内の食を支える人材の育成・定着に向け、小学生を対象とした庄内の食文化を伝える体験教室や大学生の郷土料理体験のほか、高校生を対象にパプリカをテーマとした産地見学会を

<p>開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄内の「食」を中心とした交流拡大に向け、庄内の旬の食材を使った料理と料理に合わせた庄内の酒を提供する飲食店を周遊するキャンペーンを開催した。 ・食や精神文化等の観光素材磨き上げによる観光誘客促進 ⇒羽黒山五重塔ライトアップ、高校生による庄内三十三観音魅力新発見事業の実施、「食」や「食文化」を堪能する食の都庄内ガストロノミーツーリズムを推進した。 <p>(見直しの方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄内の豊かな食や食材の価値向上に向け、継続して情報発信していく必要がある。 ・庄内の「食」の魅力を次世代に継承していく取組みを着実に推進する。 ・ポストコロナの交流拡大を踏まえ、隣県や大都市圏などとの食を通じた交流拡大を図る取組みを強化していく必要がある。 ・「食」に関わる積み重ねと精神文化等の地域資源を活かした観光誘客促進事業を展開する。

【令和4年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況
農産物等流通戦略推進事業	3,439 (3,443)	<ul style="list-style-type: none"> ・「食の都庄内」交流会の開催、動画配信（交流会参加者35名） ・小学生を対象とした「食の都庄内」サマースクールの開催（参加者20名） ・大学生を対象とした庄内の郷土料理調理体験事業の実施（参加者延べ18名） ・庄内の飲食店を周遊する「『食の都庄内』グルメ巡りキャンペーン」の開催（36店舗、プレゼント応募数410件） ・庄内産スダチの品質向上支援としてカラーチャート（色見本）の作成、生産者への配布（作成数100枚） ・庄内産農産物（メロン、庄内柿等）のSNS等を活用したPR活動による販路拡大 <ol style="list-style-type: none"> ① 「庄内の旬の食を贈ろうキャンペーン」プレゼント企画3回、応募203件 ② 首都圏放送のテレビ番組での情報発信及びプレゼント企画1回、応募357名 ③ 生産者の想いを発信する動画の作成、YouTube等での発信（総再生回数3,554回） <p style="text-align: right;">(本庁予算)</p>
6次産業化総合推進事業	308 (445)	<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化商品の魅力向上をテーマとしたセミナー・求評会の開催（参加者：セミナー39名（オンライン含む）、求評会4組） ・庄内産ワイン産地拡大に向けた研修会・情報交換会の開催（参加者43名） <p style="text-align: right;">(本庁予算)</p>
庄内浜文化伝道師による魚食普及推進事業	1,758 (1,758)	<ul style="list-style-type: none"> ・庄内浜文化伝道師講座（食育・地魚料理教室）の開催支援（29回）、魚魚まつりなどのイベント開催、SNS・Webの活用による情報発信、YouTube動画の公開 <p style="text-align: right;">(本庁予算)</p>
出羽庄内四季のテーマ観光	6,480 (6,480)	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の庄内フェア開催（参加者約18,000人）、プロジェクトンマッピング実施（8日間、参加者約650人）

推進事業		<ul style="list-style-type: none"> ・羽黒山五重塔ライトアップ(拝観者数 5,342 人)、高校生による庄内三十三観音魅力新発見事業(参加者 16 名、18 か所実施) ・来店特典等を掲載した「まちナビカード」の設置場所の増設・対象施設の拡大実施(設置場所 8 か所、参加施設 63 施設) ・ポストコロナを見据えた個人・少人数旅行に向けた情報発信(SNS 投稿 3 媒体 各投稿数約 200~300、YouTube PR 動画 視聴 11 万回、SNS 研修会 1 回)やインバウンド受入態勢の強化(研修会 1 回) ・教育旅行の受入情報発信(情報シート更新 1 回、旅行会社訪問 8 社、招請への協力 2 社) <p style="text-align: right;">(本庁予算)</p>
計	11,985 (12,126)	

⑥ 「空」と「海」のゲートウェイを起点とする交流拡大の推進

K P I	観光者数					
	基準値(平成 30 年度): 13,331 千人					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	—	—	— ※1	14,100 千人	14,300 千人
	実績値	8,045 千人	8,707 千人 (直近値)	—		
	進捗状況	その他(新型コロナの影響で指標を設定せず)				
K P I	外国人旅行者受入数					
	基準値(平成 30 年): 45,717 人					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	—	—	— ※2	95,000 人	105,000 人
	実績値	7,616 人	2,695 人 (直近値)	—		
	進捗状況	その他(新型コロナの影響で指標を設定せず)				

※1 新型コロナウイルス感染症の感染状況により観光イベントの中止や縮小などが見込まれ、動向について見通すことが困難であったため。

※2 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る入国制限が行われており、動向について見通すことが困難であったため。

【令和 4 年度における評価と見直しの方向性】

<p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポストコロナに向け、地域観光資源を活用し、マイクロツーリズムやデジタルの活用等「新たな旅のスタイル」を推進する取組みを展開した。 ⇒羽黒山五重塔ライトアップ、高校生による庄内三十三観音魅力新発見事業の実施、「食」や「食文化」を堪能する食の都庄内ガストロノミーツーリズムを推進した。 ⇒来店特典等を掲載した「庄内まちナビカード」の設置場所の増設・対象施設の拡大を実施した。 ⇒冬の庄内フェアによる情報発信、国指定名勝庭園等における冬のプロジェクションマッピングの実施を行った。 ⇒ホームページ、SNS・YouTube による情報発信、インバウンド対応研修を実施した。 ⇒教育旅行受入団体の誘致活動支援、情報シートによる発信、セールス、招請事業への協力を実施した。 ・インバウンド回復に向け、受入態勢強化のため研修会を実施した。また、Web サイトを更新し、情報発信した。

(見直しの方向性)

- ・「食」に関わる積み重ねと精神文化等の地域資源を活かした観光誘客促進事業を展開する。
- ・インバウンドのニーズや受入態勢等を学ぶセミナーを開催するとともに、外航クルーズ船の酒田寄港再開、庄内空港の期間増便及び国際チャーター便等を活かした誘客事業を展開する。

【令和4年度関連事務事業】

(単位：千円)

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況
出羽庄内四季のテーマ観光推進事業(再掲)	6,480 (6,480)	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の庄内フェア開催(参加者 約 18,000 人)、プロジェクトンマッピング実施(8日間、参加者 約 650 人) ・羽黒山五重塔ライトアップ(拝観者数 5,342 人)、高校生による庄内三十三観音魅力新発見事業(参加者 16 名、18 か所実施) ・来店特典等を掲載した「まちナビカード」の設置場所の増設・対象施設の拡大実施(設置場所 8 か所、参加施設 63 施設) ・ポストコロナを見据えた個人・少人数旅行に向けた情報発信(SNS 投稿 3 媒体 各投稿数約 200~300、YouTube PR 動画 視聴 11 万回、SNS 研修会 1 回)やインバウンド受入態勢の強化(研修会 1 回) ・教育旅行の受入情報発信(情報シート更新 1 回、旅行会社訪問 8 社、招請への協力 2 社) <p style="text-align: right;">(本庁予算)</p>
秋田広域連携推進事業	1,189 (1,264)	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田県由利地域との広域連携による環鳥海地域の観光情報の発信及びプロモーションの実施(スタンプラリー参加者 930 名、PR 動画作成 1 本)
計	7,669 (7,744)	

施策の推進方向と主な取組み

⑦ 広域交流の拡大に向けた格子状高速交通網の整備促進

K P I	日本海沿岸東北自動車道、新庄酒田道路（戸沢～酒田）の供用率					
	基準値（令和元年度）：50%					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	57%	57%	57%	65%	65%
	実績値	57%	57%	57%		
進捗状況	指標値どおりに推移					

【令和4年度における評価と見直しの方向性】

（評価）

- ・格子状ネットワークの整備促進に向けた機運醸成を図るため、山形県内の地域住民、物流・産業・観光等関係者及び行政担当者に加え、隣県の行政担当者へ対象範囲を拡大し、「高速道路・地域高規格道路整備促進セミナー」を開催した。
- ・格子状ネットワークの整備状況や道路利用者による期待の声を発信するとともに、関係機関と連携した効果的な要望活動に資するための「格子状ネットワーク全線開通による庄内地域活性化プロジェクトマップ」を作成し、関係機関への配布及び各種要望活動で活用した。

（見直しの方向性）

- ・「高速道路・地域高規格道路整備促進セミナー」について、隣県の行政担当者へ案内の対象範囲を拡大したものの、参加者は微増であったことから、参加者の関心を高めるよう、国へ隣県での事業進捗に関して情報提供の発表を依頼し、隣県との連携をさらに深めるとともに、隣縣市町の住民へ対象範囲を拡大する。

【令和4年度関連事務事業】

（単位：千円）

事業名	決算額 （予算額）	事業実施状況
庄内発！格子状ネットワーク全線開通促進活動事業	58 (135)	・「高速道路・地域高規格道路整備促進セミナー」の開催(参加者93人) ・「格子状ネットワーク全線開通による庄内地域活性化プロジェクトマップ」を作成し、関係機関等へ配布。
計	58 (135)	

⑧ 庄内空港、酒田港の利用拡大に向けた取組みの加速

K P I	庄内空港の定期便搭乗者数					
	基準値（平成 30 年度）：392,077 人					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	—	—	—※	513,000 人	518,000 人
	実績値	82,509 人	118,983 人	264,500 人		
	進捗状況	策定時を下回る				
K P I	酒田港の国際定期コンテナ航路貨物量（実入り）					
	基準値（平成 30 年）：25,321TEU					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	28,500TEU	30,100TEU	31,700TEU	33,300TEU	35,000TEU
	実績値	21,879TEU	18,613TEU	13,763TEU		
	進捗状況	策定時を下回る				

※ 新型コロナウイルスの影響による全国的な航空便の運休により、令和 4 年度の動向について見通すことが困難であったため。

【令和 4 年度における評価と見直しの方向性】

<p>（評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社が行う旅行商品の造成支援や、「おいしい庄内空港ファンクラブ会員」を対象にした宿泊付き往復航空券の割引クーポンの発行により旅行需要を喚起し、利用者数は令和 3 年度の 222.3%、平成 30 年度の 67.5%まで回復した。令和 5 年 3 月 26 日～5 月 31 日、10 月 1 日～28 日までの期間の 5 便での増便運航に繋がった。 ・酒田港利用拡大等に向けたポートセールスの展開 ⇒ 行政・民間企業・関係団体等で組織する「プロスパーポートさかたポートセールス協議会」による官民一体となったポートセールスを県内外の企業に実施し、酒田港の利用拡大を推進。（協議会で延べ 156 社訪問） <p>（見直しの方向性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今般の期間増便を通年 5 便化に繋げていくため、航空会社や旅行会社と連携した増便期間中の羽田空港から庄内空港への誘客、庄内地域の住民の空港利用を促進するキャンペーンを重点的に展開 ・酒田港のコンテナ貨物については、輸出先国での需要の変化に伴う取扱量の減が全体の貨物量を下押ししている。安定的な貨物量の確保のために、継続荷主の貨物量を維持するとともに、新たな荷主の開拓がより一層必要。

【令和 4 年度関連事務事業】

（単位：千円）

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況
航空ネットワーク拡充事業	16,400 (16,400)	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社への旅行商品造成・販売支援（羽田空港発 48 催行、庄内空港発 10 催行、国内チャーター便利用 4 催行） ・「おいしい庄内空港ファンクラブ」会員を対象とした宿泊付き往復航空券の割引クーポンの発行（羽田空港発 120 席、庄内空港発 692 席） ・庄内での釣りとワーケーションを組み合わせた新しい旅のスタイルを促進するためのフォトダービーコンテストの開催（投稿数 231 件）、動画配信（10 本）等 ・空港と温泉地等を結ぶシャトルバスの実証運行（97 名利用）

		や乗合タクシー、レンタカーの割引助成（乗合タクシー389名利用、レンタカー19件利用） ・庄内空港の機能強化を検討するための先進地空港の視察 （本庁予算）
出羽庄内四季のテーマ観光推進事業（再掲）	6,480 (6,480)	・冬の庄内フェア開催（参加者 約 18,000 人）、プロジェクションマッピング実施（8日間、参加者 約 650 人） ・羽黒山五重塔ライトアップ（拝観者数 5,342 人）、高校生による庄内三十三観音魅力新発見事業（参加者 16 名、18 か所実施） ・来店特典等を掲載した「まちナビカード」の設置場所の増設・対象施設の拡大実施（設置場所 8 か所、参加施設 63 施設） ・ポストコロナを見据えた個人・少人数旅行に向けた情報発信（SNS 投稿 3 媒体 各投稿数約 200～300、YouTube PR 動画 視聴 11 万回、SNS 研修会 1 回）やインバウンド受入態勢の強化（研修会 1 回） ・教育旅行の受入情報発信（情報シート更新 1 回、旅行会社訪問 8 社、招請への協力 2 社） （本庁予算）
計	22,880 (22,880)	

⑨ 再生可能エネルギーを活用した地域経済活性化や地域資源活用によるエネルギー地産地消の促進

K P I	庄内産木質バイオマス燃料材の生産量					
	基準値（平成 30 年）：36,600 m ³					
		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	指標値	38,000 m ³	41,000 m ³	44,000 m ³	47,000 m ³	50,000 m ³
	実績値	65,700 m ³	69,200 m ³	64,643 m ³		
進捗状況	指標値どおりに推移					

【令和 4 年度における評価と見直しの方向性】

（評価） ・未利用材の有効活用を図るため、その周知、啓発を実施。 ・庄内地域エネルギー戦略推進協議会において、「再生可能エネルギーの地産地消」をテーマとしたオンラインセミナーを開催した。
（見直しの方向性） ・引き続き、未利用材の有効活用を図るため、林業事業者等に対して施設整備を支援する。 ・再生可能エネルギーの普及拡大に向け、庄内地域での更なる再生可能エネルギーの地産地消を推進する。

【令和 4 年度関連事務事業】

（単位：千円）

事業名	決算額 (予算額)	事業実施状況
庄内地域再生可能エネルギー導入推進事業	50 (71)	・庄内地域エネルギー戦略推進協議会において、管内企業、市町村、自治会等から参加いただき、「再生可能エネルギーの地産地消」をテーマとしたオンラインセミナーを 1 回開催（令和 4 年 9 月、参加者 55 名）

林業・木材産 業成長産業化 促進対策 交付金事業	14,225 (29,141)	・未利用材などの有効利用を図るために必要な施設整備等への支 援（グラップル付トラック1台、ハーベスタ1台） (本庁予算)
計	14,275 (29,212)	